

# 北陸石仏の会々報

第 26 号  
平成14年9月30日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)  
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)  
代表 北村市朗  
〒939-1315 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方  
電話 〇七六三一三二一 二七七二  
振替 〇〇七四〇一 二一 一九七四

## 摩利支天を戴く相撲取碑

平井 一雄

### \* 「荒角大五郎」顕彰碑

『大山町の石仏』第一集には、大山町上滝大川寺遊園地駐車場入口(大川寺山)を所在地とし三十三カ所観音の二番(十一面観音)と三番(千手観音)が掲載されている。ところが、この二番と三番に挟まれて建つ「荒角大五郎碑」は石仏として調査員に認識されなかつたのか掲載されていない(写真1)。荒角の文字の上に三面で弓矢、刀剣を持ち猪に乗る図像が陽刻されている。

### \* 「摩利支天」

像容は三面多臂で刀をふりかざす。他の仏像の刀剣はほとんど両刃の剣であるが摩利支天だけは片刃の日本刀形が多いことが特徴である。

多臂像は猪に乗るといふより猪の上に立つ。インドの民

間信仰で、帝釈天と阿修羅とが戦った時この天が日月を覆ったと伝えられる。仏教では帝釈天に属し、日天の前を駆け回るが、あまりの速さで姿が見えないといわれる。これが原語の意味の「かげろう」になぞらえられた理由であろうと考えられている。「摩利支天経」には王難・賊難・猛獣・毒虫の難から火難・水難まで免れどんな鬼神も悪人もその力をふるうことができないと説かれている。したがって武士がこれを信仰し、また近代では、軍人や相撲取の顕彰碑に描かれることが多い。私が見たいくつかの顕彰碑は文字で「摩利支天」と書かれたものがほとんどであり、図像の描かれたものは、この荒角碑だけである。



写真1 荒角大五郎碑

## \*「荒角大五郎」

軍人や相撲取りの碑はよく見かけるが、由来などのはつきり記録されているものは少ない。幸いにこの荒角大五郎のことは県立図書館所蔵の竹林甚吾著『上滝街道』（私校本）の中に記載されていた。（昭和三十五年八月発行）その部分を原文のまま抜書きする。

「不動堂及び不動滝を右に見て礼拝致して進むと山の根元に明治三十二年十一月当町青年部が建てた荒角大五郎（あらかどだいごろう）の石塚があります。此の石塚は大五郎の生存の時に建立されたもので大五郎は江戸相撲で片手を折られ、後に上滝に来たり。健康で力があり心の良い人で町内の世話も良くする。青年部の力ともなり相撲の取り方を教えたり立山詣りの中語人（みちあんない）をしたり、荷物を運んだり、弱き人を背負ったり、人の為に尽したので、なくてはならぬ大五郎であったから生存の内に石碑が建てられたものと思います。明治四十一年八月私が十一歳の時、立山詣りを致せし時、荒角大五郎を中語人（ちゅうごにん）として頼まれました。一同よく世話になったものです」以下略

相撲取や馬車引組合の顕彰碑には不動明王・馬頭観音の凶像が描かれたものが多い。石仏研究の一部門として、このような顕彰碑を加えることも必要ではないかと思っ

## 第26回例会立山芦峯寺周辺の石仏探訪

尾田 武雄

6月2日富山県立山町芦峯寺周辺の石仏探訪を行った。天気のよい日で、会員のほかにインターネット市民塾の面々も参加され、賑々しい例会であった。会員前田英雄さんや中川達さんのユーモア溢れる説明に参加者一同は魅了された。芦峯寺といえば「立山博物館」のあるところであるが、入館せずに墓地や閻魔堂また布橋周辺を一日充分に楽しむことができた。

## 北陸石仏の会第26回例会参加者名簿

齋藤 善夫	尾田 武雄
中嶋 昭夫	柳沢 栄司
中川 達	南 外志雄
山崎 敏子	柳 音松
北村 市朗	大野 猪策
上田 信子	山田 玉枝
平井 一雄	平野 重二
佐伯 光作	森井 美雪
佐伯 直昭	西村多恵子
深山 節代	藤田 正時
岩城 義弘	平野 武
平野 朝子	越前 久松
越前たまき	加藤 永子
滝本 靖士	熊野 和夫



## 北陸石仏の会例会の軌跡

- 第1回 (平成4年10月20日)  
富山県・立山芦峯寺周辺と大岩不動明王
- 第2回 (平成5年3月28日)  
石川県・金沢城周辺と野田山墓地
- 第3回 (平成5年7月18日)  
福井県・小浜市の石仏
- 第4回 (平成5年9月26日)  
新潟県・栃尾市の石仏 (新潟石仏の会と共催)
- 第5回 (平成5年12月5日)  
富山県・氷見市上日寺の石仏
- 第6回 (平成6年3月27日)  
石川県・金沢市と鶴来町の石仏
- 第7回 (平成6年6月5日)  
岐阜県・宮川村の石仏
- 第8回 (平成6年9月18日)  
福井県・一乗谷の石仏
- 第9回 (平成6年12月3日)  
新潟県・村松町の石仏 (新潟石仏の会と共催)
- 第10回 (平成7年4月9日)  
石川県・羽咋市、鳥屋町、七尾市の石仏
- 第11回 (平成7年6月18日)  
新潟県・柏崎市鯖石川に沿っての石仏  
(新潟石仏の会と共催)
- 第12回 (平成7年9月3日)  
福井県・武生市の石仏
- 第13回 (平成7年12月3日)  
石川県・倶利伽羅峠の石仏
- 第14回 (平成8年5月12日)  
富山県・細入村、大沢野町猪谷の石仏
- 第15回 (平成8年9月8日)  
石川県・羽咋市、志賀町の石仏
- 第16回 (平成9年4月27日)  
福井県・三国町の石仏
- 第17回 (平成9年9月28日)  
富山県・魚津市の石仏
- 第18回 (平成10年5月17日)  
福井県・永平寺の石仏
- 第19回 (平成10年10月25日)  
富山県・砺波の石仏
- 第20回 (平成11年5月9日)  
石川県・小松市、加賀市の石仏
- 第21回 (平成11年10月17日)  
福井県・武生市、鯖江市の石仏
- 第22回 (平成12年5月13日)  
富山県・砺波地方の石仏 (日本石仏協会共催)
- 第23回 (平成12年11月12日)  
富山県・大山町日尾、石淵の石仏
- 第24回 (平成13年5月27日)  
福井県・福井市足羽山の石仏
- 第25回 (平成13年10月25日)  
富山県・福岡町、高岡市の石仏
- 第26回 (平成14年6月2日)  
富山県・立山町芦峯寺の石仏

# 『北陸石仏の会研究紀要』 目次

\*創刊号 一九九六年十一月発行

北陸石仏の会 会長 久世嘉太郎

創刊にあたって 会長 坂口 和子

曼荼羅を構成する多尊群像石仏 東京都・加藤 孝雄

福井の石仏について思いつくまま 福井県・北村 市朗

富山県・石川県の道祖神 石川県・滝本 靖士

飛騨・越中の「半僧坊」信仰 富山県・平井 一雄

粟島の信仰「板碑の集積、日本最多の島」 新潟県・梅田 始

富山県内の「石工銘の石造物」 富山県・尾田 武雄

\*第2号 一九九八年五月発行

俱利伽羅三十三観音 石川県・久世嘉太郎

武生市の無縁墓石について 福井県・北村 市朗

牛嶽権現の像容 富山県・尾田 武雄

石川県の庚申塔 石川県・滝本 靖士

越前笏谷石 福井県・大久保まさ子

報告片貝川黒谷橋詰の七福神石塔 富山県・平井 一雄

能登から還った梵鐘 富山県・斉藤 善夫

福井県三国町の石仏巡り雑感 新潟県・吉川 繁

素人の石仏行脚 富山県・中川 達

天神山城跡山頂の善光寺三尊について

立野脇の女石 福井県・北村 市朗

大山町長棟の石仏調査報告 カナダ・エレンケハダ 富山県・尾田 武雄

富山県内の「石工銘の石造物」一覽補遺

富山県・尾田 武雄

\*第3号 一九九九年十月発行

越前石製多層塔塔身の変遷について 石川県・三井 紀生

義賢行者の足跡 富山県・伊藤 曙覧

無智光導行者の名号塔(団子念仏碑)を訪ねて 富山県・平井 一雄

千体の石仏を刻んだ明治の石工森川栄次郎 富山県・尾田 武雄

福井県の無縁仏塔の一類型 福井県・北村 市朗

―千体仏を摸して― 富山県・尾田 武雄

富山県の野にある狛犬 滋賀県内の石仏群の一部について 富山県・北村 市朗

―巨大な石仏坐像と二十五菩薩― 富山県・尾田 武雄

富山県内の「石工銘の石造物」一覽 富山県・北村 市朗

\*第4号 二〇〇一年四月発行

福井県の善光寺式阿弥陀如来石仏 富山県・西田 榮一

かたくりの花を見ていた不動明王 富山県・平井 一雄

富山県東部、新潟県境の文殊菩薩 富山県・尾田 武雄

鳥居考

狛犬について一考察

―逆立ち狛犬が日本海側に何故多いの?―

中国を旅して目にした石仏・石造品 石川県・五十嵐一雄

……富山県砺波地方の石仏見学会 福井県・北村 市朗

(日本石仏協会主催)……

挿絵 神奈川県・鈴木 助晴

石仏を文化財として光をあてる  
真宗王国に石仏を訪ねて  
庄川町金屋の石仏と現代  
富山県砺波地方の石仏見学会

福井県・北村 市朗  
福井県・北野 正明  
富山県・尾田 武雄  
新潟県・島田 常雄

\*第5号 二〇〇二年六月発行

井波町の石工達

富山県・尾田 武雄

石川の白山から発祥した

―蒙古民族「貂人の犬」ビヤクジンの犬―が源流―

石川県・相古 誠一

彫られなかった碑誌

―富田翁遺徳碑―

富山県・斎藤 善夫

富山の石仏見聞記

東京都・水野 英世

おしゃべりな石仏

富山県・深山 節代

新湊(富山県)の境内を訪ねて

石川県・五十嵐 一雄

地藏さんだけが知っている(1)

富山県・中川 達

故斎藤善蔵宅石造物調査報告書

(関東板碑とその周辺)

修那羅峠の石仏について

富山県・尾田 武雄

修那羅峠の石像神仏混淆の石仏群

福井県・北村 市朗

ラジオで「今狛犬が面白い」を聞いて

富山県・平井 一雄

福井県・北村 市朗

書評 斎藤義夫著『福野村鋳物師考』と

『富山・石川梵鐘考』 鈴木 勉

送料

1冊 180円  
2冊 240円  
3冊 310円  
4冊 340円  
5冊 340円

《石仏紹介》13

【宮峠の不動明王】

柳 沢 栄 司

宮峠は高山市の南隣、宮村と久々野町の境にある峠。こゝは太平洋と日本海に別れる分水嶺。北に流れて宮川となり、富山県に入って神通川となり、日本海に注ぐ。富山平野の穀倉地帯を潤し、日本海の漁業と舟運の繁栄をもたらす。

睥睨する不動の視線をたどれば、足下に水分りの神、飛騨一の宮水無神社を、その先には小京都高山市街を、更にその先には富山平野、日本海がある。

こう考えてくると、この不動の威力たるや、真に絶大である。



## おしらせ

## 北陸石仏の会第27回例会案内

\*本年で北陸石仏の会も10周年に当たる。そこで一泊石仏旅行会を企画しようと張りきっていましたが、諸般の理由でできなくなりましたお詫びを申します。

\*過去の例会軌跡や研究紀要のバックナンバーを記載しました。研究紀要に関しては残部が若干ありますので、ご利用ください。一部一〇〇〇円です。

\*会員の三井紀生さんが大著『越前笏谷石』（福井新聞社刊）を発刊されました。「同本海沿岸各地にいかに移出されたか 越前笏谷石の流通の歴史を問う 画期的研究とフィールドワーク」と本の帯に書かれてあります。ぜひ一冊御求めください。一部二二〇〇円事務局で扱っています。

\*日本石仏協会員 会田秀秀介さんが『医と石仏・庶民の治病信仰』を青蛾書房より発刊されました。富山県東砺波郡庄川町名ヶ原の穴あき石と石仏。同砺波市中野立山酒造前の観音堂に安置されるコレラ供養の薬師如来。福井県大野市深井春日神社のあごなしさん。などが紹介されています。(A4版・246ページ・定価二〇〇〇円+税)

\*平井一雄さん・尾田武雄さんがインターネット市民塾を開催しています。詳しくは本人に問い合わせください。

\*月 日 平成14年10月20日(日)

\*時 間 集合 砺波駅南口 午前7時

富山駅北口 午前8時

泊駅前 午前9時

解散 午後3時30分 泊駅前

\*参加費 五〇〇〇円

\*申し込み 次の事項を記入の上葉書で

住所・氏名・電話番号・集合場所

\*申し込み先 千九三九一―一三一五

砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

北陸石仏の会事務局

電話〇七六三一―三二―二七七二

\*切り 平成14年10月15日

◎見学予定 富山県朝日町境

護国守境内 地藏・不動明王

八十八ヶ所観音・名号塔・庚申塔

関所跡

新潟県青海町上路

山姥神社 金時史跡 上路神社 絵馬

その他